

特定非営利活動法人 ディヘルプ 代表の 森谷 良三さん



Ryouzou MORIYA

1923年7月 東京市京橋生まれ
日本国有鉄道退職 日本国有鉄道
OB会本部 東京ディズニーランド
設立準備会 1984年退職
1994年10月 ボランティア
「DIYヘルプ」設立
1998年10月 NPO法人ディヘルプ設立

私にとってのCB

人生80年の時代に、定年後の自由時間は10万時間と言われている。その膨大な時間を地域社会の中でどう過ごしていくかが大きな課題であろう。だが、今まで付き合いのなかった地域社会の中でその思いを達成するには多くの

悩みや障害がある。それを克服して地域で生きるには、まず自分との戦いがある。従来のビジネス型人間関係から脱却して新しい人間関係を構築するには「人間共生」を根底にした思いやりの精神に徹しなければならない。今、我孫子市には300近い市民活動団体が存在するが、その多くの人達は「有難う」「お互い様」という思いやりの精神を根底に持って活動をしている。今、「生」を受けている我孫子を、美しい人情と住みよい場所にしていくには、人間同士が労い合う真の人間社会が望まれる。

起業するための3つの秘訣

自分や家族が安心して生活できる道を求める

何処でも、誰にでも自慢ができる(環境、福祉等)我孫子にしたい

よりよい人間関係を作る

当時の社会は？

私が定年になり地域に戻った時代は、まだ日本古来の「姥捨ての文化」が残っていた時であり、退職した高齢男性は身の置き場所もなかった。また、数少なかった地域のボランティア団体に声をかけたが容易に受け入れてもらえなかった。

きっかけは

ある日、小路の生垣に「婆さん、生垣の枝が邪魔だから切れ」という札が下がっていた。私は早速枝を切ってあげたが、その家のお婆さんから泣いて喜ばれた。私は、その日を境にお年寄りのために一人でボランティア活動を始めた。
平成6年、厚生労働省は「ゴールドプラン」で高齢者の家庭内事故による死亡者が8,000人になったと発表し、バリアフリーの必要性を強調した。しかし多額の工事費を必要とするためバリアフリー化は進展しなかった。「それなら、材料費だけいただいて工事をしてあげよう」と、当時地域に戻った3人の男性と、素人大工集団「DIYヘルプ」を結成した。

ありがとうの声に支えられて

結成当初は、「素人大工に何ができる」などと蔑まされたり、資金不足も手伝って活動の継続は至難なものだった。しかし、工事を終わって「ありがとう」と感謝をされる声を励みに、今日まで12年間続けてこられた。

特定非営利活動法人 ディヘルプ

連絡先

TEL 04-7182-3744

FAX 04-7182-3744

E-mail

2125030801@jcom.
home.ne.jp

Web

[http://members.jcom.home.
ne.jp/2125030801/](http://members.jcom.home.ne.jp/2125030801/)

組織概要

予算規模 600万円

会員・社員数 16名

事業概要

高齢者・障害者の家庭内事故を防止するための、手すり取り付け・段差解消の工事
高齢者が快適な生活を送るための、軽度生活援助(草刈・家具転倒防止等)
シニア・ピアカウンセリング
高齢者のためのパソコン教室

PR

人材を募集(パソコン・経理事務・日曜大工)
大工仕事の技術は必要ありません。みんなで一緒に仕事をしながら覚えましょう
作業量に応じた活動費を支払います。
事務所は社会福祉協議会の裏にあります(パソコン教室として使用)